

布施真空 株式会社

3次元表面加飾工法

(TOM)で世界市場を狙う

- 海外発注可
- 企画力自信有
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



真空孔なしの型で成形できる「NGF成形機」と、トリミングマシンの「LTMシリーズ」

業務内容

熱成形のソフトとハードの両面で事業展開

熱成形のソフトからハードまで、をうたい文句に、熱可塑性樹脂シート・フィルム成形機や周辺機器の製造販売を手がける。また成形試作、量産成形加工の受託業務も行う。機械製造部門と成形加工部門が連動して事業展開しているのが持ち味で、研究開発力には定評がある。各種シート・フィルムの特長や使用する接着剤についても精通するほか、加工を実現するための治具開発で独自のノウハウを持つ。現在は3次元表面加飾工法（TOM）の売り込みを力を入れる。金属、非鉄金属、樹脂、ガラスなどさまざまな素材に加飾できるのが特徴で、国内外の企業から注目を集めている。



3次元表面加飾成形品によるコンセプトカー

強み

創業以来、常に独創性を追求

強みは技術開発力。創業時には型とプラスチックとの隙間を真空状態にして成形品を作る真空成形機第1号機を完成し、市場投入した。昭和44年からは大型看板用の真空成形機を相次いで開発し、平成4年には2・2m×4・5mという最大成形面積を実現した。そして昭和58年には両面真空圧空成形法で特許を取得。これが平成10年に開発したTOMや、平成12年開発の次世代成形法（NGF）の礎となる。生え抜きの技術者である三浦高行社長は「成形設備や加工法において常に独創性を追求してきた」と技術開発力に絶対の自信を見せている。

工法開発

技術の継承から生まれたTOM

蓄積された技術開発力の継承で生まれたのがTOMで、さまざまな色調や質感を持つ高機能熱可塑性フィルムを素材や製品に被覆することができ、製品の高品位化を実現する。また従来からの塗装やめっきといった表面処理方法に見られるような揮発性有機化合物・六価クロムの排出などの課題も解決でき、「環境対策にも有効なオンリーワン技術」と三浦社長は胸を張る。TOM成形の後加工に最適なレーザートリミングマシンなど周辺機器も自社で開発。自動車の内装品、鉄道車輛、家電、建築資材など幅広い分野で採用されている状況で、「今後は自動車の外装品のほか、基板といった電子部品分野への応用など幅広く展開したい」と意気込む。

今後の展望

経営危機を教訓に規模より中身の濃い企業に

平成26年2月に創立60周年記念式典を社員だけで行った。平成27年1月期の売上高は、前期比15%増の11億5000万円。国内外でTOMの注目度が高まっていることを背景に平成28年も増収増益を目指す。また工作機械の新規導入など治具の開発力を強化する一方で、人材採用も順調に進み、体制が整ってきた。とはいえ、三浦社長は企業規模の拡大を追求する気はない。平成11年に経営が行き詰まり、和議で経営再建を図った経験から「次の100周年に向けて若手の人材育成と、中身の濃い会社にするのが目標」と将来を見据える。

COMPANY PROFILE

布施真空株式会社

大阪 27

当社の歴史

プラスチックの黎明期である昭和31年に創業者、多木八之助が「布施真空成型研究所」を設立。真空成形機の製造販売と周辺技術の開発でスタートしました。昭和36年には現社名に変更し、成形加工の受託も本格的に行うようになりました。「何事にも最善を尽す以て悔いなし」を社とし、社員の育成と熱成形の開発に尽力し、現在に至っています。

3次元表面加飾成形・真空成形・圧空成形などのソフトとハード両面の技術を併せ持つ独創性の高い企業です。

代表取締役社長 三浦 高行さん



■主な事業内容
熱成形機の製造・販売、
成形加工受託

住所／〒583-0841
羽曳野市駒ヶ谷
2-103

■主な取引先（納入先）
自動車の一次部品（T1）
メーカー、建築資材メーカー、
プラスチックフィルムメーカー

TEL／072-958-1401
FAX／072-958-3125
創業／昭和31年2月
設立／昭和31年2月
資本金／8,000万円
従業員／78名

<http://www.fvf.co.jp>